

2020年3月号 セゾン投信 月次運用レポート

長期投資家の皆さまへ

世界の金融市場は、2月最終週に入ってから新型コロナウイルス感染拡大の影響による動揺から、下落が止まらぬまま3月に入りました。世界の株式市場全体の値動きを示すMSCI全世界株指数(ACWI・米ドル建て)は当該1週間だけで10%以上下落する程の大きな値下がりです。この瞬間で見ると、昨年秋以降右肩上がりの上昇幅が一気に帳消しになった状況で、世界のマネーが同時にリスク回避に動いているわけです。一方で株式市場から退避した資金は、安全資産と言われる先進国債券市場に流れ込んで、その代表格である米国10年国債の利回りは史上最低水準を更新し、即ち同価格は急上昇を見せています。なぜこうした連鎖が起こっているのか。まずは新型コロナウイルスの感染が中国以外の各地に拡大し始めたことで、それがどの程度まで拡散するののかの規模感がまだ見通せないことです。そのため様々な経済活動の停滞が不確実性として意識され、中国のみならず世界全体の景気を悪化させることが想起されて、短期筋の瞬間的な売りへと連鎖しているのです。

ウイルス感染源である中国は、世界の製造拠点として今やモノの輸出入に大きく関わっており、部品の供給網は世界中に網の目の如く張り巡らされていますが、そのサイクルが途絶えるとあらゆる産業活動が支障をきたす。そうして世界貿易が滞ることが大きな懸念要因になっています。

また中国人は観光面でも世界各地に大きなインバウンド需要を与えていますが、その消費減少も各国経済に多大なる影響を及ぼすでしょう。更に日本と同様に、不要不急のレジャーや外出などが自粛されることによる日常経済の萎縮も、景気の足を引っ張るであろうことは、マーケットがすぐに反応する処で、こうした实体经济への衝撃は、感染の収束が見込まれるまで続くことでしょう。

とは言え、過去にもSARS(重症急性呼吸器症候群)などの流行でマーケットが大きく影響を受けた出来事に鑑みても、これはやがて収まる一過性のショックであろうと推察でき、感染不安が拭われてくれば、経済活動は反動も伴って一気に回復に向かう可能性をしっかりと長期投資家は想定しておくべきでありましょう。そして米金融当局は早くも利下げの再開で政策対応の意志を見せるなど、各国の緊急経済対策も早晚動き出すことでしょう。

こうした一過性と言える騒動は、しばしば後になって振り返ると、大きな市場ノイズ(一時的調整)であることを、何度もマーケットは歴史に刻んでいます。私たち長期投資家は、現状短期投機筋が狼狽している動向を冷静に俯瞰しながら、实体经济の長期的活動が描き続ける成長軌道をしっかり見据えて、決して慌てて投資行動を変えない胆力を、今こそ強く意識してください。相変わらずコツコツと投入し続ける資金が、将来の果実を大きく育てて行く機会となるはずで。

代表取締役社長 中野 晴啓

ご留意事項

当資料は受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。投資信託に係るリスクや費用等は、それぞれの投資信託により異なります。投資元本の保証はありません。お申込みにあたっては、セゾン投信からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

委託会社:セゾン投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第349号

加入協会:一般社団法人 投資信託協会

<https://www.saison-am.co.jp/>

お客さま窓口:03-3988-8668 営業時間 9:00~17:00(土日祝日、年末年始を除く)

セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド

2月の市場動向

株式

途中まで上昇したものの、新型コロナウイルスの感染拡大を受けて経済活動の停滞への懸念が強まって下落

途中まで米国を中心に景気の先行きへの明るい見方が維持されて上昇したものの、中国で新型コロナウイルスの感染拡大が続くなかで、終盤に中国以外でも感染拡大が確認されたことを受けて、世界的に経済活動が停滞して企業利益が縮小することへの懸念が強まり大きく下落しました。

債券

新型コロナウイルスの感染が拡大したことを受けて景気の先行きに対する懸念が強まって上昇

景気の先行きに対する明るい見方が維持されたことを背景に途中まで軟調に推移したものの、中国で新型コロナウイルスの感染拡大が続くなかで、終盤に中国以外でも感染拡大が確認されたことを受けて、経済活動が停滞することへの懸念が強まって上昇しました。

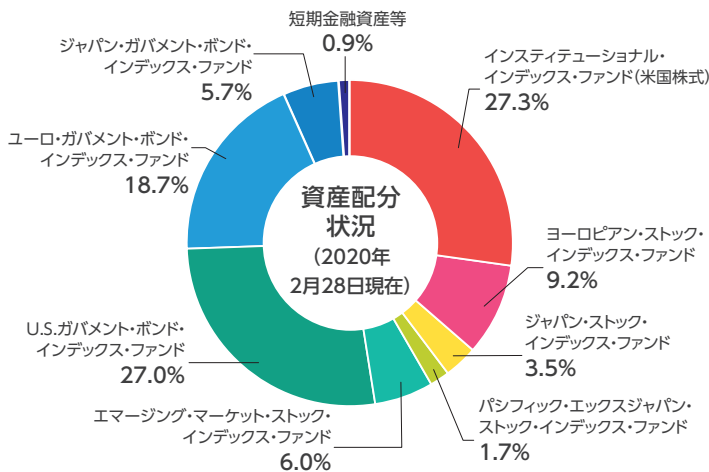
為替

先行きに対する不透明感が広がるなかでドルがユーロに対して上昇。円は終盤に上昇し、対ドル、対ユーロで円高

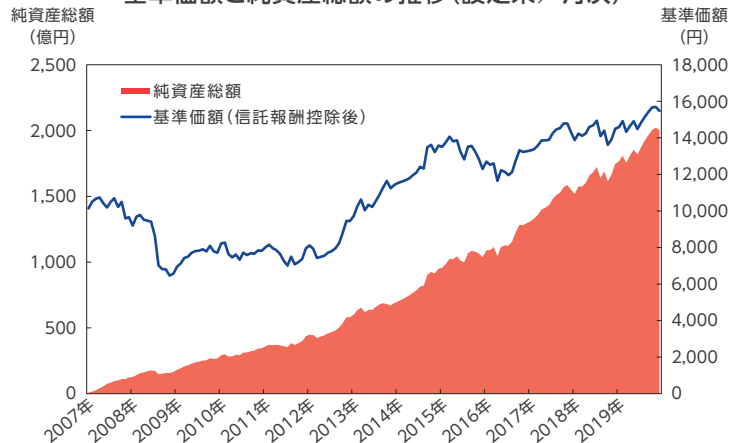
先行きに対する不透明感が広がるなかで相対的に安全な資産とされるドルが上昇し、ユーロが下落しました。円は日本経済の先行きに対する懸念が広がったことを背景に途中まで軟調に推移したものの、終盤にリスクを回避する動きが強まるなかで上昇しました。

基準価額と純資産総額及び騰落率(2020年2月28日現在)

基準価額	純資産総額	設定来騰落率	過去1ヶ月の騰落率	過去6ヶ月の騰落率	過去1年間の騰落率
15,473円	2003.8億円	54.73%	-1.43%	6.83%	6.68%



基準価額と純資産総額の推移(設定来/月次)



2月の運用状況

今月の投資スタンス

今月は、定期積立プランなどのご購入により、皆さまからお預かりした資金を利用して、定められた投資比率に従って、株式ファンドと債券ファンドの購入を行ったほか、序盤と中盤に株式・債券比率のリバランスを目的として株式ファンドと債券ファンドの売却を行いました。また、終盤に株式市場が大きく下落したことを受けて、リバランスを目的として債券ファンドの売却と株式ファンドの購入を行いました(終盤に行ったリバランスは月末の資産配分比率に反映されておられません)。

ファンドマネジャーからの一言

今月は、債券に投資するファンドが全て上昇したものの、株式に投資するファンドが全て下落し、投資先ファンドが基準価額の下落要因となりました。為替は当ファンドの評価時点では、対ドルで円安、対ユーロではほぼ変わらずとなり、基準価額の上昇要因となりました。結果、当ファンドの基準価額は下落しました。当ファンドでは引き続き、将来への予測に依存することなく幅広く投資を行うことでリスクを分散しながら、皆さまの長期的な資産形成に資することができるよう努めて参ります。

運用部長 瀬下 哲雄

図1 2月度の投資先ファンド価格の変動による影響

※月末の投資比率に基づく概算値/投資先ファンド通貨建て

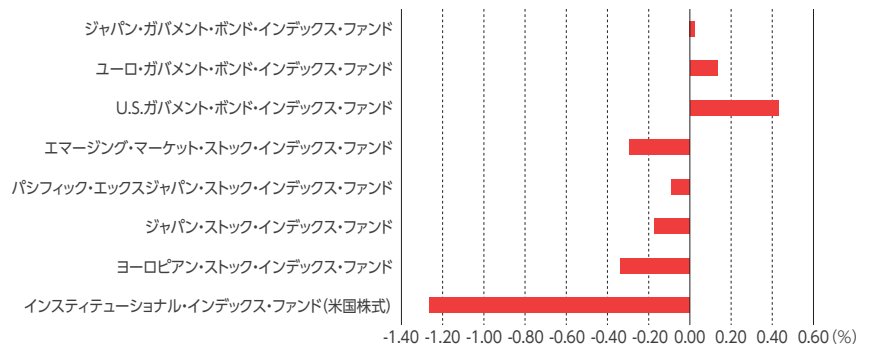
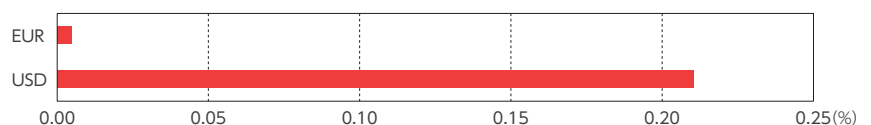


図2 2月度の為替変動による影響 ※月末の投資比率に基づく概算値



※変動要因については、右側の図1、図2もご参照ください。

※ファンドの基準価額は原則として2営業日前の株式・債券市場の終値を反映しています。

※詳細はセゾン投信HPに掲載しております「運用レポート(詳細版)」をご覧ください。

当ファンドに係るリスクについて

◆基準価額の変動要因

当社の運用、販売するファンド(以下、当ファンド)はファンド・オブ・ファンズであり、主として投資信託証券に投資を行います。当ファンドは、株式や公社債を実質的な主要投資対象としております。一般に、株式の価格は、個々の企業の活動や業績、市場・経済の状況等を反映して変動し、また、公社債の価格は、市場金利の変動等を受けて変動するため、当ファンドはその影響を受けます。〔「価格変動リスク」〕また、当ファンドは、実質的に外貨建資産に投資し、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を受けます。〔「為替変動リスク」〕その他の当ファンドにおける基準価額の変動要因としては、「カントリーリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」などがあります。したがって、投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により投資元本を割り込むことがあります。運用による損益は、すべてお客さまに帰属します。当ファンドは預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく、一定の投資成果を保証するものではありません。

◆その他のご留意点

当ファンドは、預金や保険契約と異なり、預金保険機構、貯金保険機構、および保険契約者保護機構の保護対象ではありません。加えて証券会社を通じて購入していない場合には、投資者保護基金の対象となりません。投資信託の設定・運用は委託会社がおこないます。

当ファンドに係る費用について

◆投資者が直接的に負担する費用

- 購入時手数料:ありません。
- 信託財産留保額:換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に0.1%の率を乗じた額が控除されます。

◆投資者が信託財産で間接的に負担する費用

○運用管理費用:ファンドの日々の純資産総額に年0.506%(税抜0.46%)の率を乗じて得た額とします。その他投資対象である投資信託証券において信託報酬がかかります。当該信託報酬も間接的にお客さまにご負担いただく費用となりますので、実質的な信託報酬は、年0.61%±0.02%(税込/概算)となります。

※ファンドの規模に応じて変動する場合があります。

○その他費用:信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用(有価証券の売買の際に発生する手数料や、有価証券の保管に要する費用等を含む)、監査報酬(消費税含む)、立替金の利息等が信託財産の中から差し引かれます。なお、当該その他費用については、運用状況により変動するものであり、事前に計算方法、上限額等を示すことができません。

当資料は受益者へ向けた運用状況の開示ならびにファンドの紹介を目的としてセゾン投信株式会社によって作成された資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。お申込みにあたっては、セゾン投信からお渡りする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。

当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。当資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。

[Vanguard](日本語での「バンガード」を含む。)および「tall ship logo」商標は、The Vanguard Group, Inc. が有し、セゾン投信株式会社および承認された販売会社にのみ使用許諾されたものです。また「セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド」は、The Vanguard Group, Inc. および Vanguard Investments Japan, Ltd. より提供、保証又は販売されるものではなく、また投資に関する助言を受けていることを表すものでもありません。従って、The Vanguard Group, Inc. および Vanguard Investments Japan, Ltd. は当ファンド・オブ・ファンズの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

委託会社：セゾン投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第349号
加入協会：一般社団法人 投資信託協会

<https://www.saison-am.co.jp/>

お客さま窓口：03-3988-8668 営業時間 9：00～17：00 (土日祝日、年末年始を除く)